



御指導いただいた 先生方からのメッセージ



平成30年度から2年間にわたり、「遊び 学び 育つひろしまっ子！」の実現に向けたカリキュラム研究開発事業に、勇気をもって参加していただきました4園の先生方に、まず、深く感謝したいと思います。

各々の園はすでに立派な教育課程、全体的な計画をお持ちでしたし、先生方はすでにすばらしい乳幼児期の教育・保育を実践されていましたが、私は先生方と共に出発点に戻り、改めて子供の主体性を尊重した教育・保育について考え、子供の姿を見取ることから学び直しをしました。そうしますと、今まで当たり前がいい教育・保育だと思っておられたことが、実は保育者中心型の教育・保育であったり、環境を通しての教育・保育を実践していたと思われていた保育環境が不十分であったことに気付かれたりと、この事業に取りかかれた最初の頃は先生方の葛藤されている様子を見ました。しかし、そこはベテランの先生方、子供の姿をしっかりと見取られると、まず自由遊びにおける保育室や園庭の環境がみるみる変わり始め、子供たちの笑顔と活気に満ちた園に変わり始めました。そうすると、先生たちは楽しくなり、環境構成はますます充実したものになり、「好きな遊びをする」保育と「みんなでする遊び」の保育内容が調和のとれたものになり、教育内容が充実していったと思います。その実践に基づいて、各々の園のカリキュラムを作成（改訂）される様子を拝見して、カリキュラムを作成（改訂）することは、まさに教育・保育を見直すことであったと痛感しています。このコロナ禍において、今の教育・保育を見直される時に、このカリキュラム研究が必ず生きると思っています。広島県全域の乳幼児期の教育・保育のますますのご発展をお祈りしています。

新見公立大学 特任教授、 福山市立大学 名誉教授 高月教恵

今回、因島南認定こども園、サムエル信愛こどもの園、千鶴幼稚園、御菌宇幼稚園の皆様が取り組まれた「カリキュラム研究開発」は、換言すれば、2か年にわたって、広島県教育委員会の幼児教育アドバイザーの方々、同委員会関係の方々、私のような大学教員など、園外の方々に対して定期的に実践を開示し、多様な意見に耳を傾けることで自らの実践を振り返り、改善するというサイクルのもとで行われたものです。それぞれの園にとってこの取組が、どれだけの勇気や決断を必要とし、また、どれだけの困難や葛藤を引き起こすものであったことでしょうか。そのことに思いをめぐらせるとき、上記の園の皆様のご努力に多大な敬意を表さずにはられません。

園外の方々には実践を開き、意見を傾聴することは、自園における自明性を問い直す機会となります。特に、経験豊かな幼児教育アドバイザーの方々には、第三者の視点から、それぞれの園で見聞きした様々な風景の中に、普段から何気なく行われている行為に潜む意味の素晴らしさを言語化したり、ときに感じる違和感や不自然な状況に疑問を投げかけたり、さらにより良い環境となるための具体的な方法を提案したりなど、多様な有意義なアドバイスを継続的に示していただける貴重な存在です。ともするとそれらアドバイスの中には、ときに緊張をもたらすこともあったかもしれません。本誌に掲載された上記4園の「実践事例」には、そうした指導や助言に真摯に受け止め、従来の実践を省察し、保育の質の向上を具現化した確かな足跡が、その証左として示されていることが分かります。

そしてなによりも、上記4園の「実践事例」には、広島県の乳幼児期の教育・保育に携わる私たち一人ひとりにとって、保育の質を高める工夫を学ぶための重要なエッセンスが含まれているのです。

広島大学大学院 准教授 中坪史典